

平成15年度学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	群馬県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

吾妻町立岩島中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	44	43	44	1	132	

・実践研究の概要

1. 研究の主題

「進んで学習に取り組もうとする生徒の育成～個に応じたきめ細かな指導を通して～」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

第2・3学年数学科・英語科（第2学年は、4月に行った教研式学力検査の結果、県平均と比べて低い領域が多く、学習準備等ができない生徒が多いため。また、第3学年については、生徒の習熟度の差がある学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「進んで学習に取り組もうとする生徒の育成～個に応じたきめ細かな指導を通して～」</p> <p>仮説 個に応じた指導のための教材を開発したり、指導方法や指導体制を工夫したりしてきめ細かな指導を推進していけば、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られ、学習に対する意欲が喚起されるので、進んで学習に取り組もうとする生徒の育成が図られるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各単元における「基礎・基本」のとらえ直しを行った。</li> <li>協力的な学習指導の工夫や教育課程の工夫を行った。</li> <li>シラバス（学習案内）についての共通理解を図り、その有効性を協議した。また、形式や活用方法・場面を検討し作成した。</li> <li>社会科における発展的な学習・補足的な学習の具体的方法の研究を行った。</li> </ul> <p>イ 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践</li> <li>文献調査を踏まえての全体協議</li> <li>実践の成果と課題についての協議（全体研修会）</li> <li>学力検査結果を踏まえた指導方法の工夫・改善</li> <li>先進校視察</li> </ul>
	平成15年度

習活動を進めることができるので、進んで学習に取り組もうとする生徒の育成が図られるであろう。

研究内容・方法

ア 内容

- ・英語科・数学科における単元の再構成を行った。
- ・シラバス（学習案内）の活用方法・場面の研究及び工夫・改善を行った。
- ・協力的な学習指導の工夫や教育課程の工夫・改善を図った。

イ 方法

- ・授業実践
- ・実践の成果と課題についての協議（全体研修会）
- ・観点別学力検査結果を踏まえた指導方法の工夫・改善
- ・先進校視察

平成  
16  
年  
度

テーマ

「進んで学習に取り組もうとする生徒の育成 ～個に応じたきめ細かな指導を通して～」

仮説

協力的な学習指導やシラバス（学習案内）を活用した学習指導を工夫・改善していけば、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られ、見通しをもった学習活動を進めることができ、自己の学習の達成感を味わえるので、進んで学習に取り組もうとする生徒の育成が図られるであろう。

研究内容・方法

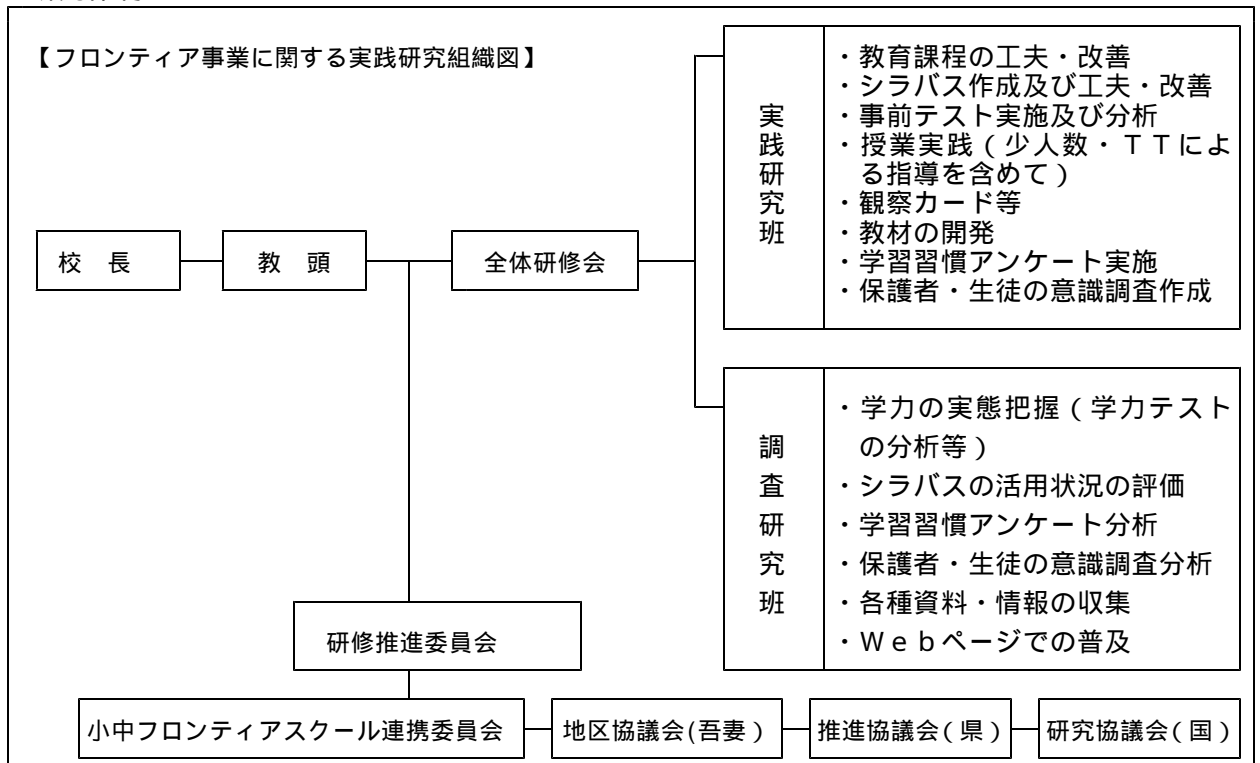
ア 内容

- ・シラバス（学習案内）の活用方法・場面の研究及び工夫・改善を進めていく。
- ・協力的な学習指導の工夫や教育課程の工夫・改善を図る。
- ・シラバス（学習案内）に対応した単元毎の評価計画を作成する。

イ 方法

- ・授業実践
- ・実践の成果と課題についての協議（全体研修会）
- ・観点別学力検査結果を踏まえた指導方法の工夫・改善

(3) 研究体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫（数学科及び英語科における協力的な学習指導）

<数学科>

- ・1学級を習熟度別に3グループ編成（A：基本コース、B：苦手克服コース、C：ステップアップコース）とし、Aコースに指導者1名、B・Cコースに指導者1名（第2学年では指導者各1名）という指導形態をとった。B・Cコースでは生徒の助け合い学習に重点を置き、指導者1名が支援を行った。この結果、学習内容の習得、苦手意識の克服、学習意欲の向上等が図られた。

第2学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 47.2（H14.7） 49.8（H15.5）

第3学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 51.7（H14.5） 53.4（H15.5）

<英語科>

- ・題材や学習内容に応じて、生徒の希望によって分けたコース別の少人数指導を行った。《ステディコース》では、教科書の本文を読むことや基本的な語句・文型の繰り返しにより多くの時間を割いて、《アドヴァンスコース》では、英語によるコミュニケーション活動により多くの時間を割いて授業を進めた。両者の間に差別意識や不安感を生じないように、題材の導入とまとめ、ALTとの協同授業では、合同の学習形態をとった。活動に使うワークシートなどについては基本的な形は同じとし、難易度や活動量を変えて作成した。その結果、生徒は自分のペースで学習を行うことができ、学習内容の習得、学習意欲の向上等が図られた。

第2学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 H14 未実施のため省略

第3学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 51.5（H14.5） 56.8（H15.5）

個に応じた指導のための教材開発（シラバスの開発）

数学科、英語科において、単元毎のシラバス（学習案内）を作成し、その活用方法・場面の研究及び工夫・改善を行った。単元の導入時にシラバスを配り、学習のねらいや内容を確認させた。また、時間や単元の終わりにシラバスにより自己評価をさせた。アンケート調査の結果によると、生徒は学習の見通しが付いたり、自己の学習の様子を振り返ることができたりするようになり、家庭で予習・復習に取り組むなど、学習に対して意欲的に取り組める生徒が多くなった。

2. 今後の課題

少人数指導とTTによる指導それぞれの長所を生かした指導方法の工夫・改善を図っていく。生徒によるシラバスの活用状況や自己評価を分析し、生徒がどのような場面で、どのようにシラバスを活用できるようにするとよいか検討し、生徒がより活用しやすい内容（形式）に整えていく。

・学力把握のための学校としての取組について

- ・定期的な観点別学力調査の実施（年1回）
- ・個人内評価の蓄積
- ・単元テスト・学期末テストの分析
- ・教研式学力テストの分析
- ・観察の記録の蓄積
- ・生徒のシラバスの活用状況や自己評価の分析

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・英語科研究授業の公開 平成15年10月8日
- ・公式「Webページ」の開設（[www.iwashima-jhs.gsn.ed.jp](http://www.iwashima-jhs.gsn.ed.jp)）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他

【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無